

全国書店員が選んだ

いちばん!

売りたい本

2018年本屋大賞

# 本屋大賞

大賞

『かがみの孤城』

辻村深月(ポプラ社)

2位 『盤上の向日葵』

柚月裕子(中央公論新社)

3位 『屍人荘の殺人』

今村昌弘(東京創元社)

4位 『たゆたえども沈まず』

原田マハ(幻冬舎)

5位 『AXアックス』

伊坂幸太郎(KADOKAWA)

6位 『騙し絵の牙』

塩田武士(KADOKAWA)

8位 『崩れる脳を抱きしめて』

知念実希人(実業之日本社)

7位 『星の子』

今村夏子(朝日新聞出版)

9位 『百貨の魔法』

村山早紀(ポプラ社)

全国書店員の投票で選ばれたベスト10

2016年12月〜2017年11月に刊行された日本人作家の小説の中で、書店員自身が自分で読んで、いちばんお勧めしたいと思った作品です。

10位 『キラキラ共和国』

小川糸(幻冬舎)

Supported by

NOLTY PAGEM  
ノルティ ペイジエム

手帳ブランドNOLTY / PAGEMは本屋大賞に協賛し、応援しています。